

デジタル化で協議する専務理事会議

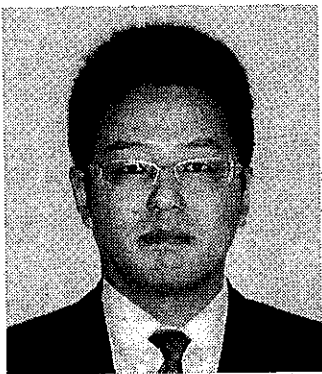
証できた。タクシーは無一完全移行への取り組みに一歩を強行して行く。作の

私のハンドルさばき

わが社期待のリーダー乗務員

「タクシーでは生活できない」と若者から敬遠されて久しい。全国平均年収は295万円。全産業の6割程度だが、都内の運転者で500万円以上の年収を取得する人は少なくなく、20代では大学新卒者を上回る収入が可能だ。業界は3Kからの脱却を目指し、労働環境の整備に余念がない。本コーナーは各社の優良運転者に入社のきっかけ、接客、安全運転、売上げ、営業エリア、營收アップの秘訣から明番の過ごし方などをインタビュー。がんばる運転者を応援し、他の模範として供したい。

練馬タクシー 安達 靖さん



東京都練馬区出身、38歳、東京実践大学卒業。会社側は「実践リーダー」として期待されている。営業エリアは都心部を中心に、接客、安全運転、売上げ、營收アップの秘訣から明番の過ごし方などをインタビュー。

実際に働いてみて感じたことは、子供がまだ3歳なので、隔日勤務で自分の

生活できる収入を得られない。話題には深入りしない。ローカルエリアはお年寄りが多く、車外に出ることで決めている。それよりも休憩をきちんと取り、無事故で続けたい。

重事故を起こせば相手やお客様、会社、家族にも迷惑をかけることになり、営業は練馬、杉並、若いころ、一瞬睡眠に襲われ目の前に壁が迫る。

爽やかな挨拶を心がけ 疲れた時は休憩を徹底

■入社 of 動機など

前職も車を運転していたが固定給で、以前からタクシーの歩合制に魅力を感じていた。営業や接客は未経験だったが、あまり若すぎると入り難い業界だったので、良い機会だと思い転職した。実は、

時間を作れることがあった。前職で残業があった時は、残った時間などは疲れて帰って寝ただけだったが、今は家事の手伝いも出来るので妻も喜んでいる。

武三地区などが中心だ。接客では、乗車された瞬間に爽やかなあいさつを心がけており、そうすればお客様からよく話しかけてくれる。ただ、これは東京無線の研修でも学んだことだが、個人的なことや選挙、宗教などは、

た経験もあるので、疲れた時はまず休むことを徹底している。自転車は必ず先に行かせるほか、明け番集会でもよく言われる交差点の右直事故の防止策として、急がなければ渡れない時は待つようにしている。以前の荷物

を運ぶ仕事と比べ、タクシーは人の命を運ぶので緊張感が全く違い、より安全運転になった。

■夢と業界に一言
今は子供の成長が全てで自分の夢は特にない。個タクになることについては、要件を満たした時

に経済状況などをみて考えたい。業界に言いたいことは、若い運転をやめて、接客はもっと愛想を良くしてほしい。一部の人のためではなく、全てのタクシーが悪く思われ、自分たちの首を絞めることになるから。



命を運ぶタク乗務は緊張感が...